

子どもの発達過程 から効果的な 体育指導を開発

専門分野 教授学(指導方法学)、バイオメカニクス
担当科目 発達発達論特論など

体育や運動・スポーツ指導を行ううえで、「発達発達への理解」が不可欠です。子どもの体力や運動能力、動作はそれぞれ異なるペースで発達します。特に「走・跳・投」の運動能力とその動作の発達について、体力の発達との関係と合わせて検討することで、それらの能力を高める効果的な指導の開発とその効果の検証に取り組んでいます。さらには陸上競技のパフォーマンス向上に関わる研究を行っています。

授業では、指導現場で感じる疑問や課題を取り上げ、ディスカッションを行いながら発達過程の検討から効果的な指導の開発・検証を行います。児童期の発達発達への理解は、体育・スポーツ指導を見直すきっかけになると思います。子どもの時期に苦手意識が芽生えれば、生涯にわたりスポーツと距離を置いてしまいます。子どもの発達発達への正しい理解を進め、教育・指導を検証することでスポーツ・運動文化の発展に共に貢献していきましょう。

キーワード

■運動能力・動作

運動・スポーツの基本となる「走・跳・投」にフォーカスし、能力と動作の関係を検討。

■発達発達

体力や運動能力、動作における発達過程を検討し、効果的な指導を開発。

■トレーニング

体力や運動能力、動作の発達過程の検討から、効果的なトレーニングを考察。

■陸上競技

陸上競技におけるパフォーマンス向上に関わる研究。

高本 恵美 教授

略歴

筑波大学大学院 博士課程体育科学研究科 体育科学専攻修了。
2003年より大阪体育大学に着任し、現職に至る。
大阪体育大学陸上競技部監督。

研究業績

高本恵美・出井雄二・尾縣貢(2003) 小学校児童における走・跳・投動作の発達: 全年齢を対象として。スポーツ教育学研究23:1-15